

2011 年 12 月 12 日

## 人相の悪い顔に対する脳内の反応を画像化することに成功！

計画班員の名古屋大学・飯高と共同研究者のオタゴ大学・宮原らは、人相の悪い人物の顔と普通の人の顔を見ている時の脳活動を計測しその結果を報告しました。

### **Functional connectivity between amygdala and facial regions involved in recognition of facial threat**

Motohide Miyahara, Tokiko Harada, Ted Ruffman, Norihiro Sadato and Tetsuya Iidaka

Social Cognitive and Affective Neuroscience (2011) doi: 10.1093/scan/nsr085

<http://scan.oxfordjournals.org/content/early/2011/12/08/scan.nsr085.abstract>

人相の良い悪いは社会的な価値観と関係し、その人物の評価にも大きな影響を与えていると言われています。この fMRI 実験では健常者を対象として、米国における死刑囚の顔と普通の人の顔を見ている時の脳活動を比較しています。顔自体から受ける危険度の評価スコアは、死刑囚の顔で対照の顔よりも有意に高くなりました。しかし扁桃体の活動は両群では有意差はなく、むしろ扁桃体と紡錘状回および上側頭回の機能的結合性が主観的な危険度評価と関連しました。本研究ではある脳領域の賦活の程度よりも、脳領域間の結合性の程度が主観的な判断と関係が強いことが分かりました。今後は相手の顔から受けるストレスの程度と、脳活動の関係などを探っていく予定です。

名古屋大学 大学院医学系研究科

飯高哲也